

## 彙 報

### 第三回総会及び研究集会

木簡学会第三回総会および研究集会は、二〇〇一年二月一日・二日両日に、奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、一六六人の個人会員、二団体の団体会員の参加を得て開催された。会場には平城宮跡出土木簡・藤原京跡左京七条一坊西南坪出土木簡（以上、奈良文化財研究所）、長岡京跡右京六条二坊六町出土木簡（財長岡京市埋蔵文化財センター）、元岡・桑原遺跡群出土木簡（福岡市教育委員会）、安芸国分寺跡出土木簡（財東広島市教育文化振興事業団）の他、平城宮跡出土の漆紙文書も展示された。

◇二〇〇一年二月一日（土）（一三時～一八時）

第三回総会（議長 南部昇氏）

佐藤宗諄会長による開会挨拶の後、以下の報告が行なわれた。

会務報告（渡辺晃宏委員）

会員の状況（個人会員三三二名、海外会員三名、団体会員四団体のほか、二〇〇二年度新入会員四名）、但馬特別研究集会の日程（二〇〇二年七月五～七日）などが報告された。

編集報告（西山良平委員）

「木簡研究」第三号の編集経過について、内容、分量、頒価などの報告がなされた。今後の編集上の課題として、未掲載分の事実報告の掲載に一層努力すべきであるとの指摘がなされた。

会計・監査報告（山中敏史委員・石上英一監事）

山中委員から二〇〇〇年度の会計（一般会計及び特別会計）決算報告がなされ、石上監事より会計業務が適正に執行されている旨の監査報告がなされた。ついで、山中委員より二〇〇二年度の予算案が提案された。

以上の案件はすべて承認された。

研究集会

報告（司会 清水みき委員）

墨書土器と木簡

高島英之氏

都城出土漆紙文書の来歴

古尾谷知浩氏

長岡京右京六条二坊六町の調査と出土木簡

中島皆夫氏

高島氏の報告は、所管名墨書土器と物品付札との比較や、祭祀遺物としての墨書土器・木簡の考察を行なったもの、古尾谷氏の報告は、漆紙文書について反故紙の供給元や漆紙文書が生じるまでの過程など史料学的問題点を整理したもの、中島氏の報告は長岡京右京六条二坊六町出土木簡についての事例報告である。このうち、古尾谷氏の報告については本号に論文を頂戴することができた。中島氏の報告については、本誌第三号に既に掲載済みである。

◇二月二日(日)(九時～一五時)

# 研究会

報告(司会 吉川真司委員)

二〇〇一年全国出土の木簡

渡辺晃宏氏

藤原京跡左京七条一坊西南坪出土の木簡

山下信一郎氏

元岡・桑原遺跡群の調査と出土木簡 吉留秀敏氏・坂上康俊氏

渡辺氏の報告は全国七一遺跡から出土した木簡の概要についての報告で、その多くは本号に掲載できた。山下氏の報告は藤原宮の南側で出土した中務省関連の木簡についての事例報告、吉留氏・坂上氏の報告は元岡・桑原遺跡群の調査概要と出土木簡についての事例報告である。

討論(司会 館野和己委員)

午後に入り、前日の報告も含めて活発な討論が行なわれた。

最後に鎌田元一副会長の挨拶で閉会した。

## 但馬特別研究会

二〇〇二年七月五日(金)・六日(土)の両日、兵庫県城崎郡日

高町において、但馬特別研究会が開催された。木簡出土の現地における研究会は、一九九四年九月の新潟特別研究会、一九九八年六月の長野特別研究会に続く第三回目のものである。木簡学会の主催、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所・出石町教育委員会・日高町教育委員会の共催として実施し、実務は別に組織した実

行委員会(委員 今津勝紀・岡崎正雄(二〇〇一年三月まで)・加賀見省

一・鎌田元一・小寺誠・輔老拓治(二〇〇二年四月から)・館野和己・寺

崎保広・吉川真司・渡辺晃宏の各氏。委員長鎌田氏、事務局長加賀見氏)

と運営委員会(委員 池田正男・大村敬通・加賀見省一・鎌田元一・小寺

誠・潮崎誠・田畑基・中島雄二・中村弘・松井敬代・山根実生子の各氏。

委員長大村氏)が担当した。また、開催にあたっては、豊岡市教育

委員会・朝来町教育委員会・竹野町教育委員会・朝来郡広域行政事務組合・養父郡広域事務組合・但馬考古学研究会・神戸新聞社の後援をいただき、木簡出土地の各教育委員会をはじめ、地元の方々に多大な協力をいただいた。今回も、会員のみでなく地元の研究や全国の大学にも参加を呼びかけ、多数の方々の参加をいただくことができた。

◇二〇〇二年七月五日(金)(午後一時～五時)

## 現地見学会

JR和田山駅に集合し、バス四台に分乗して見学会に出発した。

山東町で駅子の出挙に関わる木簡が出土し粟鹿駅家にも比定される柴遺跡と粟鹿神社を見学した後、出石町に向かい袴狭遺跡の地を訪ね、ついで出石神社を見学した。その後日高町で深田遺跡や但馬国分寺跡を見学して現地見学会を終えた。その後日高町において懇親会を開いた。見学会の参加者は、会員八一名、非会員五九名、計一四〇名であった。

◇二〇〇二年七月六日(土)

研究集会(司会 館野和己氏・今津勝紀氏)

「古代但馬国と木簡」と題して、日高町文化体育館において、研究集会を開催した。佐藤宗諄会長の開会挨拶、来賓の日高町長清水豊氏の歓迎挨拶の後、次の五本の基調報告が行なわれた。

日高町の古代遺跡と出土木簡

加賀見省一氏

出石町の古代遺跡と木簡

小寺 誠氏

袴狭遺跡出土木簡と但馬国豊岡盆地の条里

山本 崇氏

九世紀の国郡支配と但馬国木簡

吉川 真司氏

文書と題籤軸

杉本 一樹氏

基調報告の後、実行委員の館野和己氏・今津勝紀氏の司会によって討論が行なわれ、鎌田元一実行委員長の挨拶によって閉会した。参加者は、会員九二名、非会員一一四名、計二〇六名であった。なお、別室では、但馬国分寺跡・祢布ヶ森遺跡・深田遺跡・袴狭遺跡・砂入遺跡・入佐川遺跡・宮内堀脇遺跡・香住エノ田遺跡・見蔵岡遺跡など、但馬国の古代を中心とする木簡が一堂に会して展示された。

以上の報告および討論の概要については、本号に掲載した。

なお、翌七月七日(日)の九時から四時まで、「わたしたちのまち但馬―木簡からみた古代の但馬」が二七〇名の参加者を得て日高町文化体育館において開催された。主催は同シンポジウム実行委員

会、共催は木簡学会・兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所・出石町教育委員会・日高町教育委員会である。また、豊岡市教育委員会・朝来郡教育委員会・竹野町教育委員会・朝来郡広域行政事務組合・養父郡広域事務組合・但馬考古学協会・神戸新聞社の後援をえた。内容は大平茂・木下良・西口圭介・鎌田元一・佐竹昭各氏の基調報告、および加賀見省一・寺崎保広両氏の司会によるディスカッションで構成されるものであった。今回は、研究集会と内容が重ならなかったため、多数の会員の参加も得られ、地元の方々とともに第一次但馬国府の所在地など地元但馬の古代史の課題に迫ることができた。

#### 委員会報告

◇二〇〇一年二月一日(土) 一〇時三〇分―一二時

於奈良文化財研究所

総会に先立ち、会務、会計、第二三回総会・研究集会の運営、会誌第三号の編集経過と頒布価格、創立二〇周年記念図録の編集と出版形態などについて報告が行なわれ、審議の上承認された。

◇二〇〇二年六月一七日(月) 一四時―一八時

於奈良文化財研究所

1会務について、会員の異動が報告され、また、会長による常任委員の委嘱についての報告があった。2入会審査について、九人(日本古代史七人、考古学二人)の新入会申し込みのある旨が報告さ

れ、入会審査を行なった。3二〇〇一年度決算報告および監査報告が行なわれ、いずれも承認された。4会誌第二四号の編集経過(担当は寺崎保広委員、馬場基幹事)について報告がなされた。5創立二〇周年記念図録の出版形態および編集状況について報告がなされた。6但馬特別研究集会について参加申し込み状況などが報告された。7第二四回総会・研究集会の予定についての検討が行なわれた。8京奈和道問題のその後の経過について報告がなされた。9その他、今後の木簡学会の体制などについて議論がなされた。

◇二〇〇二年一〇月二九日(金) 一四時～一七時

於奈良文化財研究所

1会務について、会員の異動及び、常任委員会・幹事会の開催状況が報告された。2入会希望者九人の審査が行なわれ、全員の入会が承認された。3会誌第二四号編集状況について報告が行なわれた。4会計について、二〇〇二年度の中間報告が行なわれ、二〇〇三年度の予算案について審議した。5第二四回総会・研究集会の日程・内容などを審議した。6本年七月に実施した但馬特別研究集会の結果、及び会計についての報告が行なわれた。7京奈和道問題に対する取り組みについてその後の経過の報告が行なわれた(次項参照)。

(鶴見泰寿)

京奈和高速自動車道の平城宮跡地下トンネル計画に対する取り組み

◇二〇〇〇年六月九日(金)

木簡学会二〇〇〇年度第一回委員会において、「京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画の撤回を求める要望書」を決議し、関係各機関などに送付(本誌第二二号会告参照)。また、諸学会・団体に運動への取り組みを呼びかける。

◇二〇〇〇年二月二日(土)

木簡学会第二二回総会において、「京奈和道の平城宮跡通過の即時撤回を求める要望書」を決議し、関係各機関などに送付(本誌第二二号会告参照)。

◇二〇〇一年八月三〇日(木)

委員会(持ち回り)の了解のもと、シンポジウム「世界遺産平城宮跡を考える」実行委員会への参加を決定。

◇二〇〇一年九月一八日(火)

シンポジウム「世界遺産平城宮跡を考える」第一回実行委員会(構成団体は一九団体)。於奈良県文化会館

◇二〇〇一年一〇月一四日(日)

同第二回実行委員会。於奈良合同法律事務所。これ以後、幹事団体として参加。

◇二〇〇一年一月五日(月)

同第三回実行委員会 於奈良県教育会館

◇二〇〇一年十一月一〇日(土)

同第四回実行委員会 於明治大学考古学博物館

◇二〇〇一年一月一日(日)

第一回「世界遺産平城宮跡を考える」シンポジウムを開催。於明治大学大学会館大会議室。参加者約二〇〇名。「京奈和自動車道の世界遺産平城宮跡地下通過計画の白紙撤回を求めるアピール」を採択し、関係各機関などに送付。シンポジウム記録を、直木孝次郎・鈴木重治編『世界遺産平城宮跡を考える』として刊行(二〇〇二年一月、ケイ・アイ・メディア)。なお、当日、歴史学研究会とともに司会を担当。

◇二〇〇二年二月二日(金)

同第五回実行委員会 於奈良県教育会館 実行委員会の継続と第二回シンポジウムの開催を決定。

◇二〇〇二年四月一六日(火)

同第六回実行委員会 於奈良県教育会館

◇二〇〇二年五月二日(火)

同第七回実行委員会 於奈良県教育会館

◇二〇〇二年六月二四日(月)

同第八回実行委員会 於奈良県教育会館

◇二〇〇二年七月八日(月)

文化財検討委員会の提言のとりまとめを前に、木簡学会のこれまでの取り組みについて理解を求める書簡を文化財検討委員に送付。

◇二〇〇二年七月一九日(金)

同第九回実行委員会 於奈良県教育会館

◇二〇〇二年七月二三日(火)

文化財検討委員会の提言を受け、これを確実に実行していくよう、関係各機関などに求める書簡を送付。

◇二〇〇二年九月二日(月)

同第一〇回実行委員会 於奈良県教育会館

◇二〇〇二年九月二八日(土)

同第一一回実行委員会(東京実行委員会) 於明治大学考古学博物館

◇二〇〇二年一〇月四日(金)

同第二二回実行委員会 於奈良県教育会館

◇二〇〇二年一〇月二八日(月)

同第一三回実行委員会 於奈良県教育会館

◇二〇〇二年一一月一六日(土)

同第一四回実行委員会 於明治大学考古学博物館

◇二〇〇二年一一月一七日(日)

第二回「世界遺産平城宮跡を考える」シンポジウムを開催。於明治大学大学会館大会議室。参加者約二五〇名。「京奈和高速自動車道の世界遺産平城宮(京)跡地下通過計画の白紙撤回を求めるアピール」を採択(詳細は本号会告参照)。

(渡辺晃宏)